

## gnome の注意点

```
gdmsetup
```

この画面のセキュリティタブの

TCP 接続を禁止する

にチェックが入っていると X 転送が出来なくなる。  
ただし、SSH の X 転送とは無関係。

### ファイルマネージャ

```
nautilus --no-desktop --browser
```

でファイルブラウザが起動できる。

## Input Method(IM) について

### scim の場合

[https://wiki.archlinux.org/index.php/Smart\\_Common\\_Input\\_Method\\_platform\\_%28%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E%29](https://wiki.archlinux.org/index.php/Smart_Common_Input_Method_platform_%28%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E%29)

リモートのアプリケーションに対して、ローカルの IM を使用する場合

```
export GTK_IM_MODULE="scim"
```

だけでも大丈夫だけど、

```
export XMODIFIERS=@im=SCIM
export GTK_IM_MODULE="scim"
export QT_IM_MODULE="scim"
```

または

```
export XMODIFIERS=@im=SCIM
export GTK_IM_MODULE="scim-bridge"
export QT_IM_MODULE="scim-bridge"
```

```
export QT_IM_MODULE=scim
export XMODIFIERS=@im=SCIM
export GTK_IM_MODULE=scim-bridge
```

などのように環境変数の設定が必要。

X11 connection rejected because of wrong authentication.

って出ることがある。特に問題無く scim が使えているのだけど気になる・・・。

## ibus の場合

```
ibus-daemon -d -x
```

でデーモンを起動して、環境変数を以下のように設定する。

```
export GTK_IM_MODULE=ibus
export XMODIFIERS=@im=ibus
export QT_IM_MODULE=ibus
```

## xming-terminal.sh

```
#!/bin/bash
ibus-daemon -d -x
export GTK_IM_MODULE=ibus
export XMODIFIERS=@im=ibus
export QT_IM_MODULE=ibus
gnome-terminal
```

のようなシェルを作成しておくとも良いかも。

ibus の設定画面は

```
ibus-setup
```

で表示できる。

また、

```
WARNING **: Couldn't connect to accessibility bus: Failed to connect to socket /tmp/dbus-xxxx
```

のようなワーニングが出る場合は

```
export NO_AT_BRIDGE=1
```

を定義すると消える。

### im の優先順位変更 1

環境によっては、日本語入力の IM が優先になっていないために日本語入力ができない場合がある。

```
ibus-setup
```

でショートカットを指定するか、日本語入力以外の IM を消す

### im の優先順位変更 2

設定を書き換えることで IM の優先順位を変更できる。

```
dconf dump /desktop/ibus/general/
```

で

```
preload-engines
```

を確認。優先順位順を `dconf write` で書き込む

```
例 1 dconf write /desktop/ibus/general/engines-order "['kkc']"  
例 2 dconf write /desktop/ibus/general/engines-order "['mozc-jp', 'xkb:jp::jpn', 'xkb:us::eng']"
```

### im の優先順位変更 3

`dconf` が使えない場合、`gconf` しか使えない場合は

```
gconftool-2 --set /desktop/ibus/general/preload_engines --type list --list-type string "[mozc-jp]"
```

で変更可能。

### SSH で使う場合の例

`.bashrc` の最後に以下を加える

```
if [[ "${SSH_CONNECTION}" ]]; then  
  export GTK_IM_MODULE=ibus  
  export XMODIFIERS=@im=ibus  
  export QT_IM_MODULE=ibus  
  export NO_AT_BRIDGE=1  
  ibus-daemon -d -x  
fi
```

## SSH の経路を使わない (xauth を使う)

### 1 . [画面取得側] 設定

```
xauth list
```

でクッキー確認。

もし、設定されていなければ

```
xauth generate isplayname protocolname オプション
```

で作成する。例えば

```
xauth generate localhost:0  
または  
xauth generate xxx.xxx.xxx.xxx:0 . trusted
```

など。ディスプレイ名は基本的に `DISPLAY` 環境変数と同じで OK。

### 2 . [画面送信側] 画面の表示を X サーバーに設定

#### 1 . で確認したクッキを追加

```
xauth add 画面取得側 :0 MIT-MAGIC-COOKIE-1 00112233445566778899aabbccddeeff  
setenv DISPLAY 画面取得側 :0
```

その後

```
xeyes
```

などで画面が飛ぶことを確認。

## SSH の経路を使わない (xhost を使う)

### 1 . [ 画面取得側 ] 設定

Fedora5 以降は初期設定では X の画面取得をしない設定になっているので  
/etc/gdm/custom.conf  
に設定が必要。 gdmsetup でも可。

```
[security]  
AllowRemoteRoot=true
```

### 2 . [ 画面取得側 ] X サーバーへのアクセス許可

```
xhost 画面送信側 IP
```

### 3 . [ 画面送信側 ] 画面の表示を X サーバーに設定

```
setenv DISPLAY 画面取得側 IP:0.0
```

その後

```
xeyes
```

などで画面が飛ぶことを確認。

## SSH の経路を使う

### 1 . [ 画面送信側 ]

xauth がインストールされていること。  
/etc/ssh/sshd\_config

```
XForwarding yes
```

となっていることを確認

### 2 . [ 画面取得側 ]

/etc/ssh/ssh\_config か ~/.ssh/config

```
ForwardX11 yes
```

となっていることを確認

または、

ssh -X オプションを使う

### ディスプレイ番号を 0.0 以外にする場合

teraterm や Linux などの SSH を使う場合にディスプレイ番号を変更したい場合は

環境変数 DISPLAY

を設定すれば、そのディスプレイが適用される。

例えば、Linux の場合は

```
export DISPLAY=localhost:3.0
ssh hoge -X
```

teraterm の場合も

```
set DISPLAY=localhost:3.0
ttermpro.exe
```

### 3 . [ 画面取得側 ] 画面送信側へ SSH でログイン

SSH でログイン前に、DISPLAY 環境変数を確認。

```
DISPLAY=localhost:0.0
```

とかになっているかを確認する。

ログイン後、環境変数の DISPLAY を確認 ( 10.0 以上くらいになっているはず )。

```
xeyes
```

などで画面が飛ぶことを確認。

## sudo で X の画面を表示する

[http://d.hatena.ne.jp/suzumura\\_ss/20090714](http://d.hatena.ne.jp/suzumura_ss/20090714)

```
sudo xeyes
```

などとすると画面が表示されない。sudo で X の画面を表示するには

```
sudo XAUTHORITY= /.Xauthority コマンド
```

とする。